

宮田守男 「風」からの現場

6月中旬、松本信用金庫白馬支店の取引先がつくる「信白会」が企画した「日本三大峡谷・清津峡と海上からの日本百景」の研修旅行に参加する。

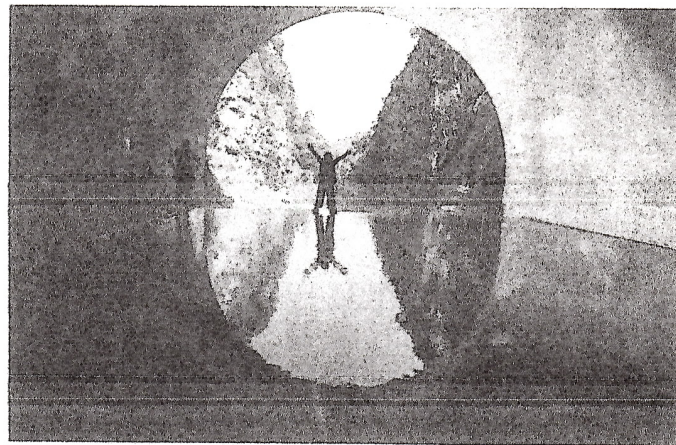
訪れた清津峡は富山県黒部峡谷、三重県の大杉谷とともに日本三大峡谷の一つに数えられる場所。信濃川の支流である清津川が形成した峡谷で新潟県十日町小出から湯沢町八木沢にかけての全長12.5キロをいい、1941年に国の名勝および天然記念物に指定されている。古くは清津川沿いの登山道からの観賞が一般的だったが、1988年に峡谷内で落石死亡事故が発生し通行禁止となり峡谷美を見ることができなくなっただけでなく、安全に峡谷美を楽しむ事ができるようにと全長7

50歳の歩道トンネルの建設が決定し1996年に開業した。だがトンネル内は退屈という意見があり、2018年に行われた第7回大地の芸術祭・越後妻有アートトリエ

旅に出て私たちが地域に求められている事を考える

映り込みが楽しめるという評判になっており、今回の企画では参加者も大いに期待した訪問地となった。建設当時工事主体は中里村(現十日町市)柱状節理の峡谷美の見

事な場所(屏風岩)を見せたいと、5年の事業期間で総工事費約20億円の工事施工を決定。県補助金8億2300万円と地方債(過疎債)の事業は財政規模が小さい自治体の、本気度のある取り組みに驚きを感じる。また



清津峡での写真スポットで皆それぞれのポーズで気分は青春時代に逆戻りが魅力だ。

十日町市は開航後20年以上が経過する中で、現代美術による再生は、継続して観光地を守る大切な着眼点だ。

観光資源を見出す着眼点も求められているのだろう。新緑・青葉の季節以外の四季に訪れたいと思ったのは私だけではないはずだ。笹川流れ観光汽船による11月の美しい日本百景に選定された海岸景勝地見学や戦後の私立博物館第1号の北方文化博物館で本物が伝える美術価値に堪能。企画運営した松本信金白馬支店の金井支店長・担当の水野さん、添乗したトラベルプラザの藤原さんに感謝だ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)